

学校だより

潮

風

令和6年度
第7号
令和6年
9月30日

教育目標 「伸びる喜びを見つけよう」
学ぶよろこび (知) 助け合うよろこび (徳) やりぬくよろこび (体)



岩内町立岩内西小学校 TEL 62-0263
<http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/nishisyo/>

主体性を育てるためには

岩内西小学校長 古館 昭仁

先日、前期の「あゆみ」をお子様に渡しました。今年度から前期は子供たちの様子等の記述は記入せず、個人懇談で保護者の方に直接、お子様の成長やこれから頑張ってもらいたいところをお話することにしました。そのように、お子様の様子について、学校と家庭が共有して進めるようにしていきます。後期の「あゆみ」にはすべての項目が記述されています。

9月は6年生の修学旅行がありました。しおりを見ますと修学旅行の目的が書いています。
①函館のことをたくさん学びましょう。②集団生活のきまりを守りましょう。③社会でのルールやマナーを守りましょう。④仲間との時間を大切に、思い出をたくさん作りましょう。この4つの目標を達成するために、6年生は一人一人が自分事として捉え、2日間しっかり学んできました。とても素晴らしかったですし、2日間でとても大きく成長をしました。

ある講演会で、これからの教育での最上位の目標として「主体性と当事者意識」をどう育てていくかというお話を伺いました。「主体性」・「当事者意識」どちらも自律（自ら考え、判断し、決定し、行動する）する力を育てるために、とても重要であるとのこと。「主体性」を育てるには、①「自己決定の場」を積み重ねることと②「自分をコントロールする力」が大切だそうです。①の「自己決定の場」を増やすためには、支援者は「どうしたの?」「どうしたいの?」「何を支援してほしいの?」という言葉がけで、子供が自分で決定する力を育てます。②の「自分をコントロールする力」を身に付けさせるには、子供が自分の特徴や行動について理解するため、ありのままの自分を受け入れて、苦手なことに「自分だけのしかけ」をつくることだそうです。例えば、自分は忘れやすいという特徴がある場合、何らかの忘れない工夫や思い出す工夫を考えておく。等です。自分自身の取扱説明書（トリセツ）をつくるのが大切だそうです。（紙面の都合で当事者意識は別の機会に紹介します）

5年生の社会科の授業では、タブレットのパドレットというソフトを使い、一人一人が日本の食料生産の現状を自分で調べ、これからの日本の食糧生産の在り方を考える授業を行いました。タブレットに打ち込んだ自分の考えは、すぐに全体に共有化され、友達の考えも参考にできます。また、調べる方法も教科書で、資料集で、ネットでと選べ、一人で、友達と、先生と自由に学び方が選べます。タブレットを活用することで効率的に学べ、しかも、学び方や誰と学ぶかも自己決定できるようになっています。決められたルールを受動的に学ぶのではなく、自己決定の場が与えられ、自分の得意な方法や苦手を補える方法を選択できるよう工夫されていて、子供たちに主体性が育つようになっています。

学校は10月19日（土）の学芸会に向けて、各学年、音楽や劇の練習を行っています。目標の達成に向けて、一人一人が目標をもって取り組んでいます。任された自分の役割をまっとうしようと、練習の方法や役割を自己決定し、得意を生かし、苦手を克服するための工夫を自分なりに考えながら、努力しています。自分の目標を達成するためのそのような努力も含め、当日の発表をぜひ楽しみにしていただき、そしてたくさんのご来校していただきませう職員一同お待ちしております。